

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪アニメーションカレッジ専門学校		平成16年3月30日	田中 道信	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5167				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒 564-0061 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5164				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	声優学科(アニメ声優コース)	平成17(2005)年度	-	令和1(2019)年度			
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき、音声及び身体を使つての表現者として必要とされる技能と知識を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アニメ・吹き替え・ナレーション・イベントMC・ラジオなど様々な分野に広がりを見せる音声業界で活躍できる技術を修得する。担任制。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,782 単位時間 〇〇 単位	180 単位時間 〇〇 単位	840 単位時間 〇〇 単位	762 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
100 人の内数	45 人	0 人	0 %	6 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		18 人					
	■就職希望者数(D)		18 人					
	■就職者数(E)		13 人					
	■地元就職者数(F)		0 人					
	■就職率(E/D)		72 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		72 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	〇〇〇〇〇〇		(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)					
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) サービス業、声優プロダクション、タレント事務所、劇団						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載			0				
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-anime.jp/data/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,782 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		120 単位時間						
うち必修授業時数		1,782 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		120 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)							
	総単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位						
うち必修単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人			
	計				5 人			
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各コース分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
遊佐 かずしげ	学校法人 京都精華大学 マンガ学部教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高垣 雅彦	日本橋CGアニメ村事務局長 株式会社 日本橋CGアニメ村事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 龍	株式会社 EARLY WING 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高原 久弥	株式会社 ハヤブサフィルム 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小島 昌男	株式会社 ラクジン 管理部 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
和田 伸一	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
佐野 美波	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
西嶋 信一郎	大阪アニメーションカレッジ専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年月12日 11:00～12:30

第2回 令和6年4月11日 15:00～16:30

第〇回 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

声優に求められる「音声表現」を基本としたスキルをこれまで以上に徹底して指導を行えるカリキュラムに再構築。その上で、身体表現、映像演技、歌唱などを学べる授業構成としました。また、放課後のレンタル教室での自主練習を推進し、全体的なレベルの底上げに取り組んでいく。又、著作権セミナー、SNS講座などを実施しネット社会でのリテラシー教育も充実していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム・授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業課題（ラジオ番組制作、TV番組制作、レポート、ナレーションの技術や表現法とフリートーク）や業界研修を通じて目指す職業に必要な知識、技術を習得させる。また、学内実施のラジオCMコンテスト（12月開催）では、業界の方に直接指導及び作品審査や評価を頂き、成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
放送制作	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	イベントMC・TVリポーター・ラジオパーソナリティの基礎を学びます。取材したことに基づいて原稿を作る技術やフリートーク力が身につくように学習します。	株式会社オフィスキーワード

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第11回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 2023年11月13日	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「子供たちの課題」に関するセミナー	連携企業等： 株式会社 ウェブリッジ
期間： 2024年3月26日	対象： 全教職員
内容： 中高生の行動特性の変遷などに関する講習。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第12回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 令和6年11月中旬	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： Z世代の育て方講座	連携企業等： ハローライフ
期間： 令和7年3月	対象： 全教職員
内容： Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法について	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の厳守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・産学協同授業では、例年通り実施し高い学習効果を得ている。
・引き続き複数高校との教育プログラム提携を実施。専門的はカリキュラムを高校生向けに再構築し、卒業生支援の一環で本校卒業生を高校へ派遣。声優の授業を実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石井 博章	サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 <small>(2年)</small>	地域関係者
東 龍太郎	学校法人利他学園RITA学園高等学校副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	教育関係者
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界関係者
北原 優希	株式会社キャラ 所属ナレーター・タレント	令和5年4月1日～令和7年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 2024年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協同特別授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 声優学科（アニメ声優コース）																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			放送制作	1年次はラジオ番組を中心とした放送におけるナレーション、フリートーク、リポートやMCなど、様々な場面を想定したトークを学ぶ。2年次は学校HPに掲載されるラジオ番組の制作を中心に番組制作における、企画～収録など制作全般を学びます。	1-2年 通年	240	16		○		○			○	○
2	○			演技	1年次は身体表現などの基礎を学び、台本を使用した演技で表現方法を基礎から学ぶ。授業の集大成として演劇発表を行う。2年次はキャスト設定や場面、背景などより細かな演技を学びます。2年校内オーディションでの演技、卒業公演での演技指導も行います。	1-2年 通年	240	16		○		○				○
3	○			業界概論	声優業界にとって必要な知識、ルールやマナーを現場目線で学びます。また、進路決定の流れ、オーディションに必要なプロフィール用紙、自己PRなど、進路に向けたレクチャーを行います。	1年 通年	120	8		○		○				
4	○			声優基礎	声優にとって基本となる、無声化や鼻濁音、アクセントなどの基礎を学びます。また、イントネーションやチェンジオブペースなど読みに関する技術を習得します。	1年 通年	60	4		○		○				
5	○			ボーカル	課題曲、自由曲を使用し、腹式呼吸、発声など声優としての基礎を歌を通じて学びます。クラスでの発表では、人前で歌うパフォーマンス力も身につけます。	1年 通年	60	2			○	○				○
6	○			ダンス	課題曲の振付を中心にダンスの基本となるエクササイズを学び、個々のダンスだけではなく、フォーメーションなどクラス全体でのパフォーマンスを学びます。また、学内・学外イベントに出演し、授業の成果を発表します。	1年 通年	60	2			○	○				○
7	○			キャリアデザイン	自分の体を知り、個々の目標設定した体づくりを学びます。また、オーディションを想定した衣装、メイク、プロフィール写真、台本の読み、自己PRなど、オーディションにおいて必要な知識、準備などのスキルアップを目指します。	1年 通年	120	8			○		○			○
8		○		アナウンス	ニュース原稿や朗読作品などを中心にナレーション、アナウンスを学びます。1年次は話ことば検定取得に向けた対策授業、2年次は、ナウンス検定取得の対策授業も行います。	1-2年 通年	240	8			○	○				○
9		○		ボイスコントロール	録音～プレイバックで自分の声を知ること。マイクに声をのせることを実際に聴きながら学んでいきます。またスタジオでのマナーやルール、機材の知識を学びます。前期は、ナレーション・アナウンス台本を中心に録音し、後期はアニメーションのアフレコ収録を行います。	1年 通年	60	2			○	○				○
10		○		声優実習	アニメーションのアフレコ、外画吹き替えを中心に、マイクワークや演技、表現などアフレコ工程全般を学びます。	2年 通年	120	4			○	○				○
11		○		舞台制作	前期は夏の発表会、後期は卒業公演といった、発表する芝居の制作を中心に行います。キャスト決定や衣装、道具の準備、フライヤーなど集客に関する準備も行い、1つの作品をクラスで作っていき工程を学びます。	2年 通年	120	8			○	○				○
12		○		アフレコ制作	アニメーション作品、洋画の吹き替えなど、声優としてのアフレコ収録を実践的にを行い、作品クオリティにこだわった表現、技術を学びます。卒業制作としてグループでアニメーションのアフレコを行い、DVDに収録します。	2年 通年	120	8			○	○				○
13	○			特別授業	前後期の授業スタート前にオリエンテーションを実施。又、1年次に1回、2年次に1回、商業演劇を鑑賞することで、プロの役者の表現を学び、研究します。	1-2年 通年	38	1			○	○	○	○	○	○
14	○			舞台発表	1年次の2月（進級前）、2年次の2月（卒業前）に声優演技実習、舞台制作の集大成としてクラス単位の舞台演劇の発表を行う。	1-2年 通年	72	2			○	○	○	○	○	○
15	○			業界研究	2年次の秋に著名声優プロダクション、タレント事務所などをお招きし、声優学科全員のオーディションを実施。自己PR、演技台本、朗読台本などを用いて行います。本番までに特別講座やセミナーを実施。	1-2年 通年	72	2			○	○	○	○	○	○
16	○			イベント制作	毎年実施されるCAT祭り、リーディングライブ、学園祭等を通じたイベント制作のプロセスを学びます。クラス単位での参加やグループ毎の参加も可能とし実行委員会を通じて模擬店や作品発表ステージパフォーマンスを行います。	1-2年 通年	40	1			○	○	○	○	○	○
合計						16	科目	1782 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 卒業要件：尚、各科目の試験などの内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上、決定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
大阪アニメーションカレッジ専門学校		平成16年3月30日	田中 道信	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5167			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒 564-0061 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5164			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	声優学科(声優アーティストコース)	平成17(2005)年度	-	令和1(2019)年度		
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき、音声及び身体を使つての表現者として必要とされる技能と知識を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アニメ・吹き替え・ナレーション・イベントMC・ラジオなど様々な分野に広がりを見せる音声業界で活躍できる技術を修得する。担任制。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	1,782 単位数 〇〇 単位	180 単位数 〇〇 単位	900 単位数 〇〇 単位	702 単位数 〇〇 単位	0 単位数 〇〇 単位
	夜間						
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
100人の内数	6人	0人	0%	〇〇%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		〇〇人				
	■就職希望者数(D)		〇〇人				
	■就職者数(E)		〇〇人				
	■地元就職者数(F)		〇〇人				
	■就職率(E/D)		〇〇%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		〇〇%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		〇〇%				
	■進学者数		〇〇人				
	■その他						
	〇〇〇〇〇〇		(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)				
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 〇〇、〇〇、〇〇					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			0			
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-anime.jp/data/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数		1,782 単位数				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位数					
うち企業等と連携した演習の授業時数		120 単位数					
うち必修授業時数		1,782 単位数					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		120 単位数					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数					
(B:単位数による算定)							
総単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位					
うち必修単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人			
	計			5人			
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各コース分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
遊佐 かずしげ	学校法人 京都精華大学 マンガ学部教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高垣 雅彦	日本橋CGアニメ村事務局長 株式会社 日本橋CGアニメ村事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 龍	株式会社 EARLY WING 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高原 久弥	株式会社 ハヤブサフィルム 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小島 昌男	株式会社 ラクジン 管理部 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
和田 伸一	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
佐野 美波	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
西嶋 信一郎	大阪アニメーションカレッジ専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年月12日 11:00～12:30

第2回 令和6年4月11日 15:00～16:30

第〇回 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

声優に求められる「音声表現」を基本としたスキルをこれまで以上に徹底して指導を行えるカリキュラムに再構築。その上で、身体表現、映像演技、歌唱などを学べる授業構成としました。また、放課後のレンタル教室での自主練習を推進し、全体的なレベルの底上げに取り組んでいく。又、著作権セミナー、SNS講座などを実施しネット社会でのリテラシー教育も充実していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、カリキュラム・授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業課題（ラジオ番組制作、TV番組制作、レポート、ナレーションの技術や表現法とフリートーク）や業界研修を通じて目指す職業に必要な知識、技術を習得させる。また、学内実施のラジオCMコンテスト（12月開催）では、業界の方に直接指導及び作品審査や評価を頂き、成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
放送制作	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	イベントMC・TVリポーター・ラジオパーソナリティの基礎を学びます。取材したに基づいて原稿を作る技術やフリートーク力が身につくように学習します。	株式会社オフィスキーワード

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第11回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 2023年11月13日	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「子供たちの課題」に関するセミナー	連携企業等： 株式会社 ウェブリッジ
期間： 2024年3月26日	対象： 全教職員
内容： 中高生の行動特性の変遷などに関する講習。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第12回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 令和6年11月中旬	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： Z世代の育て方講座	連携企業等： ハローライフ
期間： 令和7年3月	対象： 全教職員
内容： Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法について	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の厳守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・産学協同授業では、例年通り実施し高い学習効果を得ている。
・引き続き複数高校との教育プログラム提携を実施。専門的はカリキュラムを高校生向けに再構築し、卒業生支援の一環で本校卒業生を高校へ派遣。声優の授業を実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石井 博章	サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	地域関係者
東 龍太郎	学校法人利他学園RITA学園高等学校副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	教育関係者
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	業界関係者
北原 優希	株式会社キャラ 所属ナレーター・タレント	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 2024年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協同特別授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 声優学科（声優アーティストコース）																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			放送制作	1年次はラジオ番組を中心とした放送におけるナレーション、フリートーク、レポートやMCなど、様々な場面を想定したトークを学ぶ。2年次は学校HPに掲載されるラジオ番組の制作を中心に番組制作における、企画～収録など制作全般を学びます。	1-2年 通年	240	16			○	○			○	○
2	○			演技	1年次は身体表現などの基礎を学び、台本を使用した演技で表現方法を基礎から学ぶ。授業の集大成として演劇発表を行う。2年次はキャスト設定や場面、背景などより細かな演技を学びます。2年校内オーディションでの演技、卒業公演での演技指導も行います。	1-2年 通年	240	16			○	○				○
3	○			業界概論	声優業界にとって必要な知識、ルールやマナーを現場目線ですべて学びます。また、進路決定の流れ、オーディションに必要なプロフィール用紙、自己PRなど、進路に向けたレクチャーを行います。	1年 通年	240	8	○			○			○	
4	○			声優基礎	声優にとって基本となる、無声化や鼻濁音、アクセントなどの基礎を学びます。また、イントネーションやチェンジオブペースなど読みに関する技術を習得します。	1年 通年	60	4	○			○			○	
5	○			ボーカル	課題曲、自由曲を使用し、腹式呼吸、発声など声優としての基礎を歌を通じて学びます。クラスでの発表では、人前で歌うパフォーマンスも身につけます。	1年 通年	60	2			○	○				○
6		○		アナウンス	ニュース原稿や朗読作品などを中心にナレーション、アナウンスを学びます。1年次は話ことば検定取得に向けた対策授業、2年次は、アナウンス検定取得の対策授業も行います。	1-2年 通年	120	4			○	○				○
7		○		ボーカルゼミ	ドラム・ベース・ギター・キーボードの楽器の基礎と演奏を理解し楽器の演奏経験を持ち、それらがボーカルにとって重要であることの理解、実際に歌の上達のためにその知識・経験を活かすことを目指します。後期はキーボード・ギターの弾き語りバンド演奏を行います。	1年 通年	120	8			○	○				○
8		○		ボーカル実習	中級程度のボーカルテクニックの指導を行いながら、前期は校内オーディション宣材録音のための準備練習。後期は卒業コンサートでの歌唱演目練習を主に行います。様々なイベントに向けての準備練習を行うことで、より即戦力になる実をつけることを目標にしています。	2年 通年	60	2			○	○				○
9		○		コーラス	コーラスの練習を行うことを通してボーカルのピッチに対する意識を高め歌唱力の上達をうながすこと、またそれと並行して卒業コンサート演目曲の主にハーモニーやコーラスのパートの練習を制作の授業と連動して行う。	2年 通年	60	4			○					○
10		○		ダンス	1年次は体づくり、ストレッチを中心にリズムトレーニング、コンビネーションを学び、ライブでのパフォーマンスに役立てていきます。2年次は1年時に学んだダンスをもとに、より高度なダンス実技を学びます。卒業コンサートでのパフォーマンスに役立ちます。	2年 通年	60	2			○	○				○
11		○		アフレコ実習	アニメーションのアフレコ、外画吹き替えを中心に、マイクワークや演技、表現などアフレコ工程全般を学びます。	2年 通年	120	4			○	○				○
12		○		アニソン制作	卒業コンサートに向けてのリハーサルとコンサート演目を収録したアルバム制作を行います。1年生とのコラボレーション企画なども積極的に行い、2年間の集大成としてのステージを演者として務めることで全体的な流れを学ぶ貴重な機会となっています。	2年 通年	120	8			○	○				○
13	○			特別授業	前後期の授業スタート前にオリエンテーションを実施。又、1年次に1回、2年次に1回、商業演劇を鑑賞することで、プロの役者の表現を学び、研究します。	1-2年 通年	38	1			○	○	○	○	○	○
14	○			舞台発表	1年次の2月（進級前）、2年次の2月（卒業前）に演技実習、舞台制作の集大成としてクラス単位の舞台演劇の発表を行う。	1-2年 通年	72	2			○	○	○	○	○	○
15	○			業界研究	2年次の秋に著名声優プロダクション、タレント事務所などをお招きし、声優学科全員のオーディションを実施。自己PR、演技台本、朗読台本などを用いて行います。本番までに特別講座やセミナーを実施。	1-2年 通年	72	2			○	○	○	○	○	○
16	○			イベント制作	毎年実施されるCAT祭り、リーディングライブ、学園祭等を通じてイベント制作のプロセスを学びます。クラス単位での参加やグループ毎の参加も可能とし実行委員会を通じて模擬店や作品発表ステージパフォーマンスを行います。	1-2年 通年	40	1			○	○	○	○	○	○
合計						16	科目	1782 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。尚、各科目の試験などの内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上、決定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
大阪アニメーションカレッジ専門学校		平成16年3月30日	田中 道信	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5167			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒 564-0061 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5164			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化・教養専門課程	声優学科(アニソン声優コース)	平成17(2005)年度	-	令和1(2019)年度		
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき、音声及び身体を使つての表現者として必要とされる技能と知識を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アニメ・吹き替え・ナレーション・イベントMC・ラジオなど様々な分野に広がりを見せる音声業界で活躍できる技術を修得する。担任制。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,782 単位時間 〇〇 単位	180 単位時間 〇〇 単位	900 単位時間 〇〇 単位	702 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位
	夜間						
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
100人の内数	8人	1人	13%	0%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		10人				
	■就職希望者数(D)		10人				
	■就職者数(E)		6人				
	■地元就職者数(F)		0人				
	■就職率(E/D)		60%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		60%				
	■進学者数		0人				
	■その他						
	〇〇〇〇〇〇		(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)				
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 声優プロダクション、タレント事務所、劇団					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			0			
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-anime.jp/data/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数		1,782 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		120 単位時間					
うち必修授業時数		1,782 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		120 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)						
	総単位数		〇〇 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位					
うち必修単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人			
	計			5人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各コース分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
遊佐 かずしげ	学校法人 京都精華大学 マンガ学部教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高垣 雅彦	日本橋CGアニメ村事務局長 株式会社 日本橋CGアニメ村事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 龍	株式会社 EARLY WING 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高原 久弥	株式会社 ハヤブサフィルム 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小島 昌男	株式会社 ラクジン 管理部 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
和田 伸一	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
佐野 美波	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
西嶋 信一郎	大阪アニメーションカレッジ専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年月12日 11:00～12:30

第2回 令和6年4月11日 15:00～16:30

第〇回 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

声優に求められる「音声表現」を基本としたスキルをこれまで以上に徹底して指導を行えるカリキュラムに再構築。その上で、身体表現、映像演技、歌唱などを学べる授業構成としました。また、放課後のレンタル教室での自主練習を推進し、全体的なレベルの底上げに取り組んでいく。又、著作権セミナー、SNS講座などを実施しネット社会でのリテラシー教育も充実していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、カリキュラム・授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業課題（ラジオ番組制作、TV番組制作、レポート、ナレーションの技術や表現法とフリートーク）や業界研修を通じて目指す職業に必要な知識、技術を習得させる。また、学内実施のラジオCMコンテスト（12月開催）では、業界の方に直接指導及び作品審査や評価を頂き、成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
放送制作	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	イベントMC・TVリポーター・ラジオパーソナリティの基礎を学びます。取材したに基づいて原稿を作る技術やフリートーク力が身につくように学習します。	株式会社オフィスキーワード

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名： 「第11回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」 連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
 期間： 2023年11月13日 対象： 教職員4名
 内容 音声業界の動向・最新事情についての研修会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「子供たちの課題」に関するセミナー 連携企業等： 株式会社 ウェブリッジ
 期間： 2024年3月26日 対象： 全教職員
 内容 中高生の行動特性の変遷などに関する講習。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名： 「第12回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」 連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
 期間： 令和6年11月中旬 対象： 教職員4名
 内容 音声業界の動向・最新事情についての研修会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： Z世代の育て方講座 連携企業等： ハローライフ
 期間： 令和7年3月 対象： 全教職員
 内容 Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の厳守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・産学協同授業では、例年通り実施し高い学習効果を得ている。
・引き続き複数高校との教育プログラム提携を実施。専門的はカリキュラムを高校生向けに再構築し、卒業生支援の一環で本校卒業生を高校へ派遣。声優の授業を実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石井 博章	サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	地域関係者
東 龍太郎	学校法人利他学園RITA学園高等学校副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	教育関係者
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	業界関係者
北原 優希	株式会社キャラ 所属ナレーター・タレント	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>
公表時期: 2024年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協同特別授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>
公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 声優学科（アニソン声優コース）																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			放送制作	1年次はラジオ番組を中心とした放送におけるナレーション、フリートーク、リポートやMCなど、様々な場面を想定したトークを学ぶ。2年次は学校HPに掲載されるラジオ番組の制作を中心に番組制作における、企画～収録など制作全般を学びます。	1-2年通年	240	16		○					○	○
	○			演技	1年次は身体表現などの基礎を学び、台本を使用した演技で表現方法を基礎から学ぶ。授業の集大成として演劇発表を行う。2年次はキャスト設定や場面、背景などより細かな演技を学びます。2年校内オーディションでの演技、卒業公演での演技指導も行います。	1-2年通年	240	16		○						○
	○			業界概論	声優業界にとって必要な知識、ルールやマナーを現場目線で学びます。また、進路決定の流れ、オーディションに必要なプロフィール用紙、自己PRなど、進路に向けたレクチャーを行います。	1年通年	240	8				○			○	
	○			声優基礎	声優にとって基本となる、無声化や鼻濁音、アクセントなどの基礎を学びます。また、イントネーションやチェンジオブベースなど読みに関する技術を習得します。	1年通年	60	4		○					○	
	○			ボーカル	課題曲、自由曲を使用し、腹式呼吸、発声など声優としての基礎を歌を通じて学びます。クラスでの発表では、人前で歌うパフォーマンスも身につけます。	1年通年	60	2			○					○
		○		アナウンス	ニュース原稿や朗読作品などを中心にナレーション、アナウンスを学びます。1年次は話ことば検定取得に向けた対策授業、2年次は、ナウンス検定取得の対策授業も行います。	1-2年通年	120	4			○					○
		○		ボーカルゼミ	ドラム・ベース・ギター・キーボードの楽器の基礎と演奏を理解し楽器の演奏経験を持ち、それらがボーカルにとって重要であることへの理解、実際に歌の上達のためにその知識・経験を活かすことを目指します。後期はキーボード・ギターの弾き語りやバンド演奏を行います。	1年通年	120	8		○						○
		○		ボーカル実習	中級程度のボーカルテクニックの指導を行いながら、前期は校内オーディション宣材録音のための準備練習。後期は卒業コンサートでの歌唱演目練習を主に行います。様々なイベントに向けての準備練習を行うことで、より即戦力になる実力をつけることを目標にしています。	2年通年	60	2			○					○
		○		コーラス	コーラスの練習を行うことを通じてボーカルのピッチに対する意識を高め歌唱力の上達をうながすこと、またそれと並行して卒業コンサート演目曲の主にハーモニーやコーラスのパートの練習を制作の授業と連動して行う。	2年通年	60	4			○					○
		○		ダンス	1年次は体づくり、ストレッチを中心にリズムトレーニング、コンビネーションを学び、ライブでのパフォーマンスに役立っていきます。2年次は1年時に学んだダンスをもとに、より高度なダンス実技を学びます。卒業コンサートでのパフォーマンスに役立ちます。	2年通年	60	2			○					○
		○		アフレコ実習	アニメーションのアフレコ、外画吹き替えを中心に、マイクワークや演技、表現などアフレコ工程全般を学びます。	2年通年	120	4			○					○
		○		アニソン制作	卒業コンサートに向けてのリハーサルとコンサート演目を収録したアルバムの制作を行います。1年生とのコラボレーション企画なども積極的にを行い、2年間の集大成としてのステージを演者として務めることで全体的な流れを学ぶ貴重な機会となっています。	2年通年	120	8			○					○
	○			特別授業	前後期の授業スタート前にオリエンテーションを実施。又、1年次に1回、2年次に1回、商業演劇を鑑賞することで、プロの役者の表現を学び、研究します。	1-2年通年	38	1			○					○
	○			舞台発表	1年次の2月（進級前）、2年次の2月（卒業前）に舞台演技実習、舞台制作の集大成としてクラス単位の舞台演劇の発表を行う。	1-2年通年	72	2			○					○
	○			業界研究	2年次の秋に署名声優プロダクション、タレント事務所などをお招きし、声優学科全員のオーディションを実施。自己PR、演技台本、朗読台本などを用いて行います。本番までに特別講座やセミナーを実施。	1-2年通年	72	2			○					○
	○			イベント制作	毎年実施されるCAT祭り、リーディングライブ、学園祭等を通じイベント制作のプロセスを学びます。クラス単位の参加やグループ毎の参加も可能とし実行委員会を通じて模擬店や作品発表ステージパフォーマンスを行います。	1-2年通年	40	1			○					○
合計						16	科目	1782 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。尚、各科目の試験などの内容については、各学部長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上、決定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪アニメーションカレッジ専門学校		平成16年3月30日	田中 道信	〒 564-0062 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5167				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人大阪創都学園		昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒 564-0061 (住所) 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-5164				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	声優学科(声優/俳優コース)	平成17(2005)年度	-	令和1(2019)年度			
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき、音声及び身体を使つての表現者として必要とされる技能と知識を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アニメ・吹き替え・ナレーション・イベントMC・ラジオなど様々な分野に広がりを見せる音声業界で活躍できる技術を修得する。担任制。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,782 単位時間 〇〇 単位	180 単位時間 〇〇 単位	840 単位時間 〇〇 単位	522 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	240 単位時間 〇〇 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
100人の内数	3人	0人	0%	20%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		4人					
	■就職希望者数(D)		4人					
	■就職者数(E)		4人					
	■地元就職者数(F)		0人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	〇〇〇〇〇〇		(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)					
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 声優プロダクション、タレント事務所、劇団						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		0		評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇			
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-anime.jp/data/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,782 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		120 単位時間						
うち必修授業時数		1,782 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		120 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B:単位数による算定)								
総単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		〇〇 単位						
うち必修単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		〇〇 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		〇〇 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		〇〇 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		5人					
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての闊達な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各コース分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
遊佐 かずしげ	学校法人 京都精華大学 マンガ学部教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高垣 雅彦	日本橋CGアニメ村事務局長 株式会社 日本橋CGアニメ村事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 龍	株式会社 EARLY WING 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
高原 久弥	株式会社 ハヤブサフィルム 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
小島 昌男	株式会社 ラクジン 管理部 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
和田 伸一	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
佐野 美波	大阪アニメーションカレッジ専門学校		
西嶋 信一郎	大阪アニメーションカレッジ専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年月12日 11:00～12:30

第2回 令和6年4月11日 15:00～16:30

第〇回 令和〇年〇月〇日 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

声優に求められる「音声表現」を基本としたスキルをこれまで以上に徹底して指導を行えるカリキュラムに再構築。その上で、身体表現、映像演技、歌唱などを学べる授業構成としました。また、放課後のレンタル教室での自主練習を推進し、全体的なレベルの底上げに取り組んでいく。又、著作権セミナー、SNS講座などを実施しネット社会でのリテラシー教育も充実していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は、カリキュラム・授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 企業課題（ラジオ番組制作、TV番組制作、レポート、ナレーションの技術や表現法とフリートーク）や業界研修を通じて目指す職業に必要な知識、技術を習得させる。また、学内実施のラジオCMコンテスト（12月開催）では、業界の方に直接指導及び作品審査や評価を頂き、成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
放送制作	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業をを担当	イベントMC・TVリポーター・ラジオパーソナリティの基礎を学びます。取材したに基づいて原稿を作る技術やフリートーク力が身につくように学習します。	株式会社オフィスキーワード

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や各種表現活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、大阪創都学園 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第11回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 2023年11月13日	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 「子供たちの課題」に関するセミナー	連携企業等： 株式会社 ウェブリッジ
期間： 2024年3月26日	対象： 全教職員
内容： 中高生の行動特性の変遷などに関する講習。	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 「第12回賛助会員加盟社合同オンラインセミナー」	連携企業等： 一般社団法人日本声優事業者協議会
期間： 令和6年11月中旬	対象： 教職員4名
内容： 音声業界の動向・最新事情についての研修会	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名： Z世代の育て方講座	連携企業等： ハローライフ
期間： 令和7年3月	対象： 全教職員
内容： Z世代の価値観に合わせた育成方法や指導方法について	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために多角的にその運営が適正に行われているのかを審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令の厳守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・産学協同授業では、例年通り実施し高い学習効果を得ている。
・引き続き複数高校との教育プログラム提携を実施。専門的はカリキュラムを高校生向けに再構築し、卒業生支援の一環で本校卒業生を高校へ派遣。声優の授業を実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
石井 博章	サニーストーンホテル 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	地域関係者
東 龍太郎	学校法人利他学園RITA学園高等学校副校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	教育関係者
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	業界関係者
北原 優希	株式会社キャラ 所属ナレーター・タレント	令和5年4月1日～令和7年3月31日 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 2024年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の理念でもある、“業界にとって信頼できる人材育成機関であること”を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協同特別授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.osaka-anime.jp/data/>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 声優学科（声優俳優コース）															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			放送制作	1年次はラジオ番組を中心とした放送におけるナレーション、フリートーク、リポートやMCなど、様々な場面を想定したトークを学ぶ。2年次は学校HPに掲載されるラジオ番組の制作を中心に番組制作における、企画～収録など制作全般を学びます。	1・2年 通年	240	16		○		○		○	○
2	○			演技	1年次は身体表現などの基礎を学び、台本を使用した演技で表現方法を基礎から学ぶ。授業の集大成として演劇発表を行う。2年次はキャスト設定や場面、背景などより細かな演技を学びます。2年校内オーディションでの演技、卒業公演での演技指導も行います。	1・2年 通年	240	16		○		○			○
3	○			業界概論	声優業界にとって必要な知識、ルールやマナーを現場目線で学びます。また、進路決定の流れ、オーディションに必要なプロフィール用紙、自己PRなど、進路に向けたレクチャーを行います。	1年 通年	120	8	○			○			
4	○			声優基礎	声優にとって基本となる、無声化や鼻濁音、アクセントなどの基礎を学びます。また、イントネーションやチェンジオベースなど読みに関する技術を習得します。	1年 通年	60	4	○			○			
5	○			ボーカル	課題曲、自由曲を使用し、腹式呼吸、発声など声優としての基礎を歌を通じて学びます。クラスの発表では、人前で歌うパフォーマンスも身につけます。	1年 通年	60	2			○	○			○
6	○			ダンス	課題曲の振付を中心にダンスの基本となるエクササイズを学び、個々のダンスだけではなく、フォーメーションなどクラス全体でのパフォーマンスを学びます。また、学内・学外イベントに出演し、授業の成果を発表します。	1年 通年	60	2			○	○			○
7	○			キャリアデザイン	自分の体を知り、個々の目標設定した体づくりを学びます。また、オーディションを想定した衣装、メイク、プロフィール写真、台本の読み、自己PRなど、オーディションにおいて必要な知識、準備などのスキルアップを目指します。	1年 通年	120	8		○		○			○
8	○			アナウンス	ニュース原稿や朗読作品などを中心にナレーション、アナウンスの基礎を学びます。学内行事である『リーディングライブ』では舞台での朗読劇を行います。また、話ことば検定取得に向けた対策授業も行います。	1年 通年	60	2			○	○			○
9	○			アクション	1年次はアクションにとって必要なルーティンと、バントマイム、課題のアクションを学び、イベントの出演も行う。2年次はアニメ祭でのアクション劇の制作、ヒーローショーの制作、卒業公演での殺陣シーンなど、舞台上で魅せるアクションを学びます。	1・2年 通年	240	8			○	○			○
10	○			アフレコ実習	アニメーションのアフレコ、外画吹き替えを中心に、マイクワークや演技、表現などアフレコ工程全般を学びます。	2年 通年	120	4			○	○			○
11	○			舞台制作	前期は夏の発表会、後期は卒業公演といった、発表する芝居の制作を中心に行います。キャスト決定や衣装、道具の準備、フライヤーなど集客に関する準備も行い、1つの作品をクラスで作あげていく工程を学びます。	2年 通年	120	8			○	○			○
12	○			映像制作	映画（ドラマ）は、総合芸術。持ちうる全ての英知を結集し、出演者の立場だけでなく、制作過程をチームワークを保ち、自らが行動することで完結させる。また、現在映像制作現場で求められている、「考えることのできる役者」の要請を目指し、発想法の訓練も行う。	2年 通年	120	8			○	○			○
13	○			特別授業	前後期の授業スタート前にオリエンテーションを実施。又、1年次に一回、2年次に1回、商業演劇を鑑賞することで、プロの役者の表現を学び、研究します。	1・2年 通年	38	1			○	○	○	○	○
14	○			舞台発表	1年次の2月（進級前）、2年次の2月（卒業前）に声優演技実習、舞台制作の集大成としてクラス単位の舞台演劇の発表を行う。	1・2年 通年	72	2			○	○	○	○	○
15	○			業界研究	2年次の秋に署名声優プロダクション、タレント事務所などをお招きし、声優学科全員のオーディションを実施。自己PR、演技台本、朗読台本などを用いて行います。本番までに特別講座やセミナーを実施。	1・2年 通年	72	2			○	○	○	○	○
16	○			イベント制作	毎年実施されるCAT祭り、リーディングライブ、学園祭等を通じてイベント制作のプロセスを学びます。クラス単位での参加やグループ毎の参加も可能とし実行委員会を通じて模擬店や作品発表ステージパフォーマンスを行います。	1・2年 通年	40	1			○	○	○	○	○
合計							16	科目	1782 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。尚、各科目の試験などの内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上、決定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 定められた授業時間割を元に年間カリキュラムを履修。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。